

町民公開講座

無料

2023年8月20日(日) 開場 9:00 開会 9:30~閉会 11:30

会場変更：養老町町民館 0584-32-1281 岐阜県養老郡養老町石畑 483-2

第56回生命情報科学シンポジウム 合宿

岐阜県養老郡 養老町民 公開講座

がんとの付き合い方—ホリスティック(全人的)医学

主催：国際生命情報科学会(ISLIS,イリス)、岐阜県養老郡 養老町

共催：国際総合研究機構(IRI,アールイ、愛理)、科学平和文化財団(SPC-F)、
養老町在宅医療介護連携推進協議会

協賛：養老郡医師会、日本ホリスティック医学協会(JHMS)

9:30-3分 進行： 養老町地域保活支援センター 田中 友美

9:33-5分 開会の辞： 船戸 崇史 医師、 ISLIS 理事、 船戸クリニック 院長

伝統と権威ある国際生命情報科学会(ISLIS)主催の「第56回生命情報科学シンポジウム」の大会長を拝命し、川地養老町長始め皆様のご協力を得て、8月18日から3泊4日の合宿と本公開講座を地元養老町と共催で主催出来る事に感謝致します。また、私が30年間挑戦して来た「がんとの付き合い方—ホリスティック医学」について知って頂く機会を得て嬉しく思います。

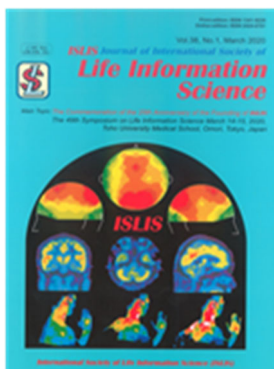
9:38-5分 町長挨拶： 岐阜県養老郡 養老町 川地 憲元 町長



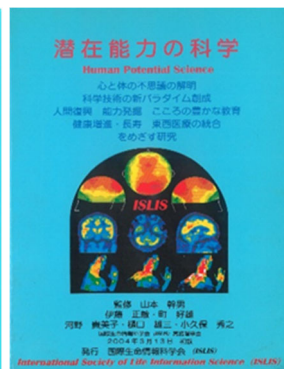
この度、国際生命情報科学会 第56回生命情報科学シンポジウム合宿がここ養老の地で開催されますことを心よりお祝い申し上げます。また本プログラムの中で「町民公開講座」として、専門知識を住民レベルに分かりやすくご講演頂けますこと、誠に感謝に堪えません。広報紙(2023.1.1)によれば、養老町の死因の1位はがん、2位は心疾患。住民4人に1人が高血圧で2.5人に1人が糖尿病です。こうした現状を改善するには住民自身が健康志向に目覚め、時に生き方の転換が必要でしょう。この度「ホリスティック(全体的)ながん治療」という新しい視点をご教示頂けるとの事で、地域住民の健康意識が高まる事を祈念しております。

9:43-15分 国際生命情報科学会(ISLIS イリス)とは 山本 幹男 医学博士・工学博士

ISLIS 創業者・理事長・編集委員長、国際総合研究機構(IRI) 創業者・理事長、元 文部科学省 放射線医学総合研究所 研究室長、東邦大学 客員教授、千葉大学大学院 客員助教授、米国 ワシントン大学 研究員
ISLIS は、気功、太極拳、ヨガ等心身健康増進、美容、ヒーリング、予防・未病医学、ホリスティック医学、統合医療、代替医療、透視、念写、テレパシー、千里眼、ピラミッドパワー、UFO等、20世紀の科学では全く説明できてない、不思議な現象と原理を国際的叡智を結集して解明し、21世紀の科学を創出し、潜在能力を開花させ、医学・教育・産業等に応用し、世界の人々の、生き甲斐の創生、健康・福祉、平和に寄与することを目的として1995年に創立した、純粋な学術団体です。年に2回「生命情報科学シンポジウム」(夏は地方で合宿)を主催。世界11カ所に情報センター・15カ国に会員を有す。



ISLIS 学会誌



ISLIS 単行本



IRI ピラミッドパワー
研究プロジェクト(PPP)

9:58-20分 **ホリスティック (全人的) 医療とは** **降矢 英成** 医師・医学博士
ISLIS 理事、 日本ホリスティック医学協会 常務理事(前会長)、 赤坂溜池クリニック 院長



「ホリスティック (holistic)」とは、「全体的な」という意味の英語です。ですので、「ホリスティック医療」とは「**全体的に病気や患者さんを診る**」という意味になります。具体的には、「臓器」だけを診るのではなく「全身」(体全体)を診る、さらには「体」だけでなく「心」も含めて診る、そして、「個人」だけではなく「環境」も含めて診る、というように「全体」の範囲が広がります。さらには、海外では「**body (身体) - mind (心) - spirit (魂・靈性) の統合体として診る**」という表現もされており、魂や靈性まで視野に入れていきます。今注目されている「ホリスティック医療」の概要について、段階的に分かりやすくご紹介したいと思います。

10:18-25分 **当院の実践 (新しいがん治療の挑戦)** **船戸 崇史** 医師
ISLIS 理事、 日本ホリスティック医学協会 副会長、 船戸クリニック 院長



大学卒業後消化器外科の道に入り、必然的にがんと出会い外科という方法で治療してきた。しかし、術後の経過は人それぞれで、進行速度の違い、中には完全に切除したが再発したり、残っているのに消失する人もあった。そこには生き方が関係しており、**免疫を削ぐ生き方 (不眠・冷え・運動しない・ぞんざいな食事・笑いのない習慣)** が関係していると思われた。折しも自身も腎臓がんを患いそれを実感し、手術に加えて高濃度 VC や免疫療法、温熱治療などの補完代替医療も導入、何より免疫を削ぐ生き方から**活性化する生き方 (良眠・良食・運動・加温・笑いある習慣)** への転換も心がけた。そもそもがんは生活習慣病であり、がん以前の生活をがん生活と位置づけ、**なぜその生き方になったかを深く反省する場**が必要ではないかと「**リボーン洞戸**」を建設した。

10:43-20分 **未来のがん治療とは** **帯津 良一** 医師・医学博士
ISLIS 会長、 日本ホリスティック医学協会 名誉会長(元会長)、 帯津三敬病院 名誉院長



医療とは患者さんを中心に家族、友人、医療者の織り成す“場”の営みである。すべての当事者が自らの内なる生命場のエネルギー(命)を高めながら他の当事者の内なる生命場に思いを遣ることによって医療という場のエネルギーが高まって来る。その結果、患者さんは病を克服し、他の当事者のすべてが癒される。これが医療である。
そして、そのための基本は**患者さんと医療者が寄り添い合うこと**である。すなわち、**命で寄り添い合うこと**である。そのためにはまず死を命の終りではなく命のプロセスの一つと考えることである。すると死の向こう側が見えて来る。すべての人が**二つの世界を統合して、生と死の統合社会を実現**することが **ホリスティック医学の究極**である。

11:03-20分 質疑応答

11:23-2分 **閉会の辞:** **岐阜県養老郡 養老町** **田中 一也** 副町長

11:25-5分 情報提供 **養老町在宅医療介護連携推進協議会**からの情報提供